

ソシテ薬師堂裏ノ或腐木ニ當テ込ミノ變形菌ヲ探サレタガ遂ニ發見サレズ殘念ガツテ居タ落合君ふうらんヲ得
タ上段ノほるとのきハ一抱ニアマル大木デ珍ラシイカラ保護シタイ石門ニ澤山ナいはたばこガ生ズルガ是ハ花
梗ニ細毛ノアル一變種デアル延生地藏堂ノ右手裏山ノ中ニ進ミふうたうかづら、じづねのきナドヲ採リ加野
君ハむくろじノ實ヲ振り落ストテ一抱餘ノ大木ニましらノ如ク攀ヂ登リ三丈餘ノ高キ枝ニ乗リ盛ニ搖リ動カシ
テ金鈴ノ如キ實ヲ電ヤ霰ト降ラセタ會員ガ喜ンデ拾フコト、茲ニ於テカ新ニ木庄大盡ノ黃金播キナル
語ガ出來タ其實ヲ拾テ喜ンダノハ小供バカリデハナイ四十面ノ男ガ其實デ笛ヲ作ツテピーヒヨロヒヨロト無邪氣
ニ吹キ鳴ラシテ喜ンデ居ツタ、歸リニハ登ッタ道ノ反對側ノ谷ニ降リタカラえふざんガヨク育チ數十株並ンデ
居ル此谷ハ更ニ前ノ谷ヨリハ一層優レタ自然ノ歯采園デリヤうめんしだガ一面廣ク生イ茂リ其間ニベにしだ、い
はがねぜんまい、ふもとしだ、へらしだ、くりはらん、おりづるしだ、ほうびしだ等盛ニ繁茂シ確カニ是等植物
ノ寶庫デアル此處ニ多キいづせんりやうニハ小サキ蓄ラ澤山着ケテ居タ又たにじやからうさうノ枯レタからガア
ツタ飽クマデ採集シテ此谷ヲ出デ鐵路ヲ横ギリ横須賀街道ヲ右ニ逗子ニ向ツテ進ンダ一番後トノ牧野先生ヲ取
リ巻ク一組ハ緩々ト歩ヲ運ビ先生ハ途中農家ノ前に切り倒サレテアツタざくろノ幹ノ直徑四寸位ノモノヲ見付
ケざくろノ材ハメツタニ得ラレヌカラトテ之ヲ求メ逗子驛前ノ運送屋ニ頼ンデ自宅ヘ送ラレタ

○斷枝片葉（其十六）

牧野太郎

●うんらん ト謂ヘドモ蘭ノ類デハナイ是レハ海邊砂場ニ生ズルごまのはぐさ科ノ宿根草本デアツテ夏ニ花
ガ咲ク花冠ノ舷部ガ假面狀ヲ呈シ花筒ノ下部ニ下ヲ指シタ距ガアツテ *Linaria* 屬ノ標徵ヲ表ハシテ居ル學名ヲ
L. japonica Miq. ト稱シ本邦唯一ノ同屬代表者デアル此草ノ本名ハキンセイカウ(花形カラノ見立テ)デアルガ今

前號釋明并ニ正誤

ハ洋草ノ *Antirrhinum majus* L. ヲさんあよだうト稱スルカラ此方ハうんらんノ名デ呼ンデ居ルうんらんトハ
海蘭ノ義デうみらんガうんらんトナツタノデアル海ハ海野ナドノ様ニ能ク其音便デうんトナルノデアル
●らしやうもんかづらノ意義 *Meehania urticaefolia* MAKINO. ノ學名ヲ有スル脣形科ノ蔓狀宿根草ハ春其
草ニ似合ハナイ大紫花ヲ開キ其花筒ハ太ク長ク長サガ凡一寸餘モアル此草ヲらしやうもんかづらト名ケタノハ
多分此太キ棍棒狀花冠ヲ彼ノ渡邊綱ガ羅生門デ切取ツタ鬼ノ太ト腕ニ見立テ之ヲサウ呼ンダデハナイカト思フ

●釋明 前號デ發表シタ東京天然紀念物保存會ニ對スル多數人士ノ感想ノ論議ニ關シテ内務省ノ史蹟名勝天然
紀念物保存協會ノ一評議員タル白井光太郎君カラ御はがきヲ下サレタガ元來私ガアノ文ヲ草スル時白井君ヘ對
シテハ白井ノしノ字モ私ノ頭ノ中ニハ閃カズ白井君ヲ目標ニスル問題ニハ毛頭モ觸レナカッタ、折惡ク偶マ自
井君ガ右會ノ評議員デアツタモンダカラトンダ迷惑ヲ同君ニ及ボシ誠ニ相濟マヌ次第アル茲ニアノ論評ハ決
シテ白井君ニ關係ノナイ事ヲ天下ニ釋明シテ置ク

●序ニ言ハシテ頂キタイ、トニカク天然紀念物保存會ノ植物部ガ振ハナイノハ事實デマルデ隱居仕事ヲシテ居
ルヤウナ有様デアル、ウソダト思ヘバ第三者ニ聽テ見ルガヨイ是レハ畢竟潑刺タル適材ガ網羅シテナク少數ノ
人ガ其要部ヲ獨占シテ居ル結果デアル、白井君ハ植物方面デモ元老株デ愛憎偏頗ナク何事ニモ公明切實デ從テ
其一言一句ハ衆ノ重シトスル所デアルカラ現狀ヲ洞察シ夤縫ヲ排斥シ大ニ當局ニ獻言シ國家ノ爲ニ其刷新ヲ圖
ル事ニ盡力シ世人ノ期待ニ副ハレン事ヲ切望スル是レハ應ニ萬人ノ言ハント欲スル所ノモノデアル（牧野）

●前號正誤

○○口繪、津村重吉氏肖像下 *Dystha*、*Dyfsha* ○(72)頁、八行

廣邊東

カントン

廣東邊

カントン